

# 高島市リハビリ連携協議会の取り組み

地域リハビリテーション人材育成研修を終えて

川島直之（リハビリデイサービスひまわり）

はじめに

高島市ではリハビリテーション専門職（以下リハ職）が団結して、地域共生社会実現にむけて活動する「高島市リハビリ連携協議会（以下協議会）」が存在する。

協議会から、平成29年に滋賀県立リハビリテーションセンターが主催する、「地域リハビリテーション人材育成研修（県リハ研修）」に、8名のリハ職が参加し、高齢、障害、小児、産業領域など幅広く学び総合的な支援体制、地域包括ケアシステムの構築にむけて今後リハ職がどのように関わっていくかを学んだ。協議会では研修会で学んだ事を活かし、高島市においてリハ職が取り組むべき課題を抽出し取り組みを行っている。

現状と課題

高島市は高齢化率が滋賀県第1位であることもあり、高齢者領域でのリハ職の取り組みは行政・関係各機関と連携し積極的に進められている。しかし、それ以外の小児領域、障害領域、産業領域では取り組めていない。

高島市のリハ職が小児・障害領域に積極的に介入出来ていない要因として、知識経験が乏しいこと、小児領域への介入方法を知らない、介入システムがない、障害者（児）と関わる場が少ないという課題が挙げられた。

さらに、高島市の地域課題として、「若者離れ・人材不足」があり、行政機関が実施したアンケート調査によると、高校生の50%以上が、定住、Uターンを考えていないという現状がある。

取り組み

## 1) 高島市小児人材育成事業

平成30年4月より半年間、小児領域を取り巻

く県、高島市の現状、制度、法律、介入方法など多岐にわたる分野をカリキュラムとした研修事業を実施した。現在は課題整理と、今後の介入の可能性について検討し、関係各機関や、行政機関に情報発信し、リハ職が小児領域に介入できるよう準備を進めている。

## 2) 障害者交流（障害者スポーツ）

課題分析より、スポーツを通じて障害者（児）と気楽に交流する機会を作る必要があった。協議会では既存のスポーツクラブを利用し、障害、年齢問わず誰もが参加できる「ボッチャ」を月2回実施している。

## 3) 次世代交流事業（中学生に対して）

協議会では中学生を対象に、福祉体験を通じ、若い時期に新たな視点で高齢者と関わり、リハ職の可能性を知る事で身近なところから地域共生について学び、郷土愛を養う事を目的に事業を立ち上げた。現在は社会福祉協議会と行政と協力し、市内中学校にアンケートを取り、平成31年より協議会が介入できるよう準備を進めている。

おわりに

現在、協議会においても所属毎の特色により地域介入への意識に個人差が大きく、人手不足や偏りが生じてきている。今後、地域共生社会実現にむけてリハ職がさらに地域課題へ意識を高める為には、県リハ研修などの研修は必要となる。

また、各事業において関係機関や、地域住民が主体的に動く中でリハ職が必要に応じて専門性を出せる形を構築する必要がある。それには、政機関との連携が必須であり、地域作りのシステムの一翼が担える組織を目指す必要がある。